

# 和歌山には、伝統の力と新しい力がある

変化し続ける社会やマーケットに対応する、和歌山の底力。それは地方都市だからこそ持ち得たポテンシャル。生涯現役社会の未来像を探ってみた。



左／慶應義塾大学三田キャンパス図書館旧館前に建つ創立者・福澤諭吉像。右上／2011年竣工した近代的な三田キャンパス南校舎。伝統と革新が共存したキャンパス内の象徴として、塾生たちの新たな拠点となっている。右下／図書館旧館の裏手に建つ和歌山出身の望郷詩人佐藤春夫の詩碑。

## 知事対談

清家 篤×仁坂吉伸

慶應義塾長

和歌山県知事

仁坂知事（以下仁坂）●慶應義塾と和歌山県は古くから縁が深く、かつて紀州藩は中津藩、長岡藩と並んで慶應義塾三藩と呼ばれていたようですね。  
清家篤氏（以下清家）●慶應義塾は1858年、福澤諭吉により創設されました。当時、入塾する学生が多くなったのがその三藩でした。一つは当然福澤の地元である中津藩ですが、紀州藩からの学生はそれよりも多く、一時は紀州藩の学生のための寄宿舎が塾中に作られ、紀州塾と言われました。さらに紀州藩からは立派な塾長も多く輩出されました。大学制度を取り入れた当初の塾長である小泉信吉も、中興の祖とも呼ばれ、後に文部大臣にもなった鎌田栄吉、また、幼稚舎（小学校）を作った和田義郎も紀州藩出身です。

仁坂●紀州藩主徳川茂承公は福澤先生と親交があり、優秀な藩士の子弟を意識して入塾させたと聞いています。また初代郵政大臣であり、耐久舎（現在の和歌山県立耐久高等学校）を創設した「稻むらの火」で有名な濱口梧陵も、文通するなど非常に親交が深かったそうです。  
清家●紀州には教育熱心な方が大勢いたようです。慶應は日本中に森を所有していますが、和歌山県有田川町（旧清水町）にも「清水の森」と呼ぶ森を所有しています。これは平成9年、慶應のOBで和歌山の林業家である海瀬亀太郎氏が福澤記念育林会に寄附して下さったものです。

### 進む高齢化と生涯現役社会への転換

仁坂●清家さんが提唱する「生涯現役社会」への転換の必要性について、お聞かせいただけますか。

清家●日本は65歳以上の高齢者が4人に一人、世界で一番高齢化が進んでいます。そういう状況の中で日本の経済社会の活力を維持するために、働く意志と仕事能力のある高齢者の方々が、元気に働き続け、日本の経済社会をささえる側にいてくださる事が大切です。

仁坂●日本人というのは元々すごく勤勉な国民ですからね。

清家●そうですね。働くことを通じ、社会と繋がりを持ち社会に貢献する。そしてそこに喜びを見いだす。そういう気持ちを持っている方が多いと思います。和歌山県も日本の平均より高齢人口比率が高くなっていますが、地方の地域社会といふのは、歳をとつた方が社会を支える伝統が元々あります。また日本の中小企業では大企業と比べると圧倒的に高齢者の能力が活用されているんですね。特色を生かした競争力のある中小企業も地方



## 知事対談

清家 篤×仁坂吉伸

慶應義塾長

和歌山県知事



## 清家 篤(せいけあつし)

1954年東京都生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。博士(商学)。商学部長を経て2009年から慶應義塾長。現在、社会保障制度改革国民会議会長、経済社会総合研究所名誉所長(内閣府)などを兼務。「高齢者の労働経済学」、「高齢者就業の経済学」など高齢者と労働についての著書多数。

画一的なサービスに満足できなくなります。むしろ温泉に行くのも“健康的になるため”が重要で、量をたくさん食べるのではなく、少量でもいいから地元の新鮮でいい食材を使った料理をじっくり味わう。そういう旅のスタイルにこそ付加価値を感じるようになります。今までどさしく知事がおっしゃるように“今までど同じサービスがいいとは限らない”ということですね。

仁坂●マーケットの変化は社会に様々な変化を求めてます。もちろん個人の価値観も変化してきました。一生懸命働き都市部での便利な生活を過ごしてきたが、「都

課題先進県だからこそ  
チャンスがある

会の喧噪に疲れた」という人たちも増えてきたように思います。特に中高年の方々の中で、のんびりとした田舎暮らしに魅力を感じている人たちも少なくないようです。そういう人たちには是非和歌山に来ていただきたい。美しい自然と温かい気候と豊富な温泉。そしてなにより美味しい水や空気、そして食材。観光だけではなく住んでいただき、さらに楽しみながら仕事をし、和歌山の良さを満喫していただきたい。もちろんそのために県としても様々な施策が必要となつてきます。例えば過疎地における宅配や新聞、郵便配達の人などの力を借りた見守りなども組織的に運営していくこうとしています。

清家●民間の力を借りた福祉サービスの充実。素晴らしいアイディアです。私は和歌山県には伝統の力と新しい力、両方

が共存していると思います。伝統の力とは世界遺産の高野山や熊野三山、それは観光資源としても素晴らしい。新しい力とは梅や蜜柑という非常に付加価値の高い農産物を作り、マグロや鯛など育てる一次産業の技術力などがものすごい。また製造業においても世界に誇る技術を持つ有力な企業が立地しています。もちろん慶應義塾三藩と呼ばれた時代から続く教育力がベースにあるのはいうまでもありません。よくピンチはチャンスと言いますが、和歌山県の高齢化が進んでいくということは、高齢化への対応をテコにした社会発展を実現する事ができる中で、和歌山県が日本の社会を益々豊かにするために大切な役割を果たしていく

ださるのではないかと期待しています。  
**仁坂**●和歌山県はある意味、課題先進県だと思います。しかし先立つてこの高齢化社会に向かいあい、上手く課題を乗り越えることができれば、日本中あるいは世界中に“生涯現役社会”的リーダーシップを示すことができるのではないかと思っています。そのためには新しい力と伝統の力だけではなく、それを支える人を育てる力「教育力」が大切です。学力はももちろんですが、豊かな心を育む道徳教育、郷土教育などにも県として一生懸命取り組まなくてはならないと思っています。本日はお忙しい中ありがとうございました。

課題先進県だからこそ  
チャンスがある

課題先進県だとも  
チャンスがある

に多く、そこでは高齢の方々がよく活躍されている。日本の地域社会の中に“生涯現役社会”的あるべき姿が見えてくるのではないかと期待しています。大量生産で勝負する大企業の職場では、仕事の量や速さなど比較的若者に有利なところが強調されます。しかし中小企業の得意分野は必ずしもそうではありません。いわゆる受注生産だと、きめの細かいサービスに対応することなどで付加価値の高い商品を生み出していく。そこにはむしろ経験や人間の深み、広い知恵などが重視されます。実際、グローバルな競争力をもつている地方の製造業では、60～70代のベテランの方が活躍し、さらに自身の持つて経験や技能を若い人達にも継承しています。

農林水産業の分野で第一線で活躍されている方が大勢いらっしゃいます。しかし、その“生涯現役社会”を推進していくためには、高齢化社会にあつた社会制度が必要となってきますよね。私は高齢化社会そのものより経済的牽引役といえる人たちが少なくなってしまう少子化社会の方が問題が大きいのではと思っています。

清家●全くその通りです。現在の社会保障制度というのは、いまほど平均寿命が長くなく、若者が多く高齢者が少ない時代の人口構造を前提に作られています。少子化が進むということは、国の将来を考えると大変なことです。ですから積極的に子育て支援などに福祉財源を回す必要があります。その時に重要なのが、高齢の方々が病気もせず元気で働き続けられる社会であるかということなので

す。もちろん医療費の抑制にも繋がります。それが“生涯現役社会”です。

## 変化するマーケットと 新たなビジネスチャンス

**清家**●高齢化社会が進むということは、国内の消費者も高齢化することです。ですからマーケットも高齢者の方々に魅力を感じてもらえるような商品やサービスを提供していかなければなりません。さらに、人口が減少する可能性を考えると、国内市場の縮小もある程度は避けられない。それならば海外からもつとお客様を呼ぶ。あるいは海外の方々にもつと日本製品を買っていただく。そのようなことも重要なことがあります。

今までと同じサービスがいいとは限らない。逆にいえば高齢化社会におけるマーケットの変化は、新たなビジネスチャンスを創出するということですね。和歌山县でも現在、健康をキーワードとした県産品の販路拡大に力を注いでいます。これは高齢化社会においてますます高まると想像される健康へのニーズに応えるためです。「果樹王国」と言われるようすに和歌山県は、果物をはじめとする農産物の宝庫。これら自然の恵みの力を活用し、新たなマーケットに対応していくこうと頑張っています。

**清家**●昔の観光旅行といえば、夕食は食べきれない程の山海の珍味が並び、旅館やホテルで満腹するのが楽しみでした。しかし観光客も高齢化し、しかも様々な旅の経験を重ね、目も舌も肥えた方々は

す。もちろん医療費の抑制にも繋がります。

今までと同じサービスがいいとは限らな

A close-up photograph of a middle-aged man with dark hair and glasses, smiling broadly. He is wearing a dark pinstripe suit jacket over a light-colored button-down shirt. The background is blurred, suggesting an indoor office environment.

# 知事対談